



GENE TECHNO SCIENCE

Mothers
証券コード:4584

株式会社ジーンテクノサイエンス

2019年3月期 第1四半期決算
補足説明資料

2018年8月6日



GTS 3.0

バイオで価値を創造する
エンジニアリングカンパニー

治療法が不十分な疾患に対する
医療を提供し、新しい領域を開拓する

—患者、家族、介護者を含め、包括的なケアを目指して—



GTSの注力領域

- ❖ 小児疾患（若年性疾患含む）
- ❖ 希少疾患
- ❖ 難病
- ❖ アジアの疾患

業績ハイライト

➤ 2019年3月期 第1四半期の実績は順調に進捗

フィルグラスチムバイオシミラーは計画どおりの売上高を達成。そのほか、バイオシミラーの開発進捗に伴うマイルストーン受領。一方で退任取締役に対する特別功労金（特別損失）を計上。

事業ハイライト

➤ ナノキャリア(株)、ノーリツ鋼機(株)との資本業務提携

各社の強みを持ち寄って、新規バイオ技術の創出を目指す。

➤ 新経営体制

3名の取締役（GTS・ノーリツ鋼機・社外）と、それを支える主要経営メンバーによる新体制をスタート。

➤ 長生バイオとの共同事業化提携解消方針

早期の提携解消に向けて交渉及び新たな中国パートナーの探索を開始。

➤ (株)chromocenterとの共同研究契約締結

クロモセンターが所有する技術を導入して、高産生細胞株樹立を目指す。

2019年3月期 第1四半期業績

◆ 2019年3月期 第1四半期業績

	売上高 (百万円)	販売費及び一般管理費 合計	内 研究開発費	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期 純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円) ※
2019年3月期 4月～6月実績 (A)	273	251	(141)	△55	△62	△108	△5.69
2018年3月期 4月～6月実績 (B)	171	213	(104)	△118	△114	△115	△6.02
増減額 (A - B)	102	38	(37)	63	52	7	
(参考) 2019年3月期 業績予想値	1,060		1,300	△1,180	△1,180	△1,182	

主なポイント

- フィルグラスチムバイオシミラーは、計画どおりの売上高を達成
- 開発進捗に伴うマイルストーン収益も含む

- 研究開発費は主にバイオシミラー事業の推進に支出
(開発は順調に進捗)

- 退任取締役に対する特別功労金45百万円計上
(特別損失)

※2018年7月1日付で株式1株につき2株の株式分割を行っておりますが、2018年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益を算定しております。

ナノキャリア(株)・ノーリツ鋼機(株)との資本業務提携

2018年4月 ナノキャリア(株)・ノーリツ鋼機(株)・当社の3社間で資本業務提携契約を締結

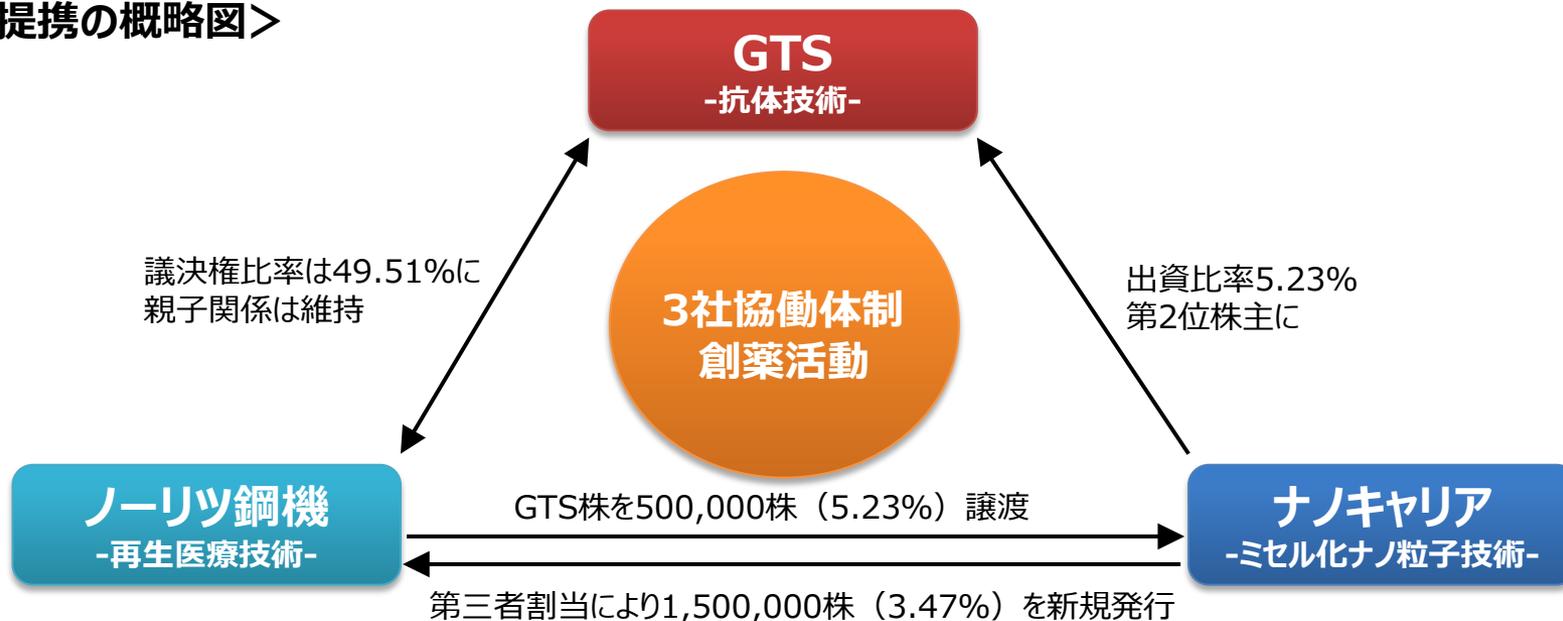
ポイント

- 3社がそれぞれの強みを持ち寄って、新規バイオ技術の創出を目指す
- ナノキャリアはGTS株を、ノーリツはナノキャリア株を取得し、3社が資本関係を構築

<各社の得意分野を融合>

- ナノキャリアは自社特有のミセル化ナノ粒子技術を活用して、低分子、核酸、ペプチド医薬品を封入した抗がん剤を中心に革新的な医薬品の開発を進めている
- ノーリツ鋼機は創薬部門において再生医療事業を推進し、同部門の一翼を担っている当社もバイオシミラー事業で培った抗体技術を活かして、それぞれがグループ内で創薬事業に取り組んでいる

<本提携の概略図>



新経営体制

GTS
3.0

取締役会

主要経営メンバー

事業開発本部
研究開発本部
製薬本部
経営管理本部

- 新経営陣 -

医薬品業界に精通した取締役による迅速かつ的確な経営判断
GTS・NK・社外取締役の3名によるガバナンスの向上

<メンバー>

谷 匡治

野口 亮

栄木 憲和

現 (株)日本再生医療 (NKグループ) 代表取締役

元 バイエル薬品(株) 代表取締役会長



- 経営陣を支える各部門のエキスパート -

<メンバー>

坂部 宗親

川上 雅之

上野 昌邦

栄 靖雄

事業開発担当

研究開発担当

管理・総務担当

経営企画・IR担当

提携解消方針決定の概要

- 2018年7月15日
長春長生生物科技有限責任公司（長生バイオ）は、自社の狂犬病ワクチン製造業において法律法規違反行為があったとして、中国当局（国家食品薬品监督管理局）より通告を受け、生産停止を命じられる。
事態を重く見た中国政府は本格的に調査開始し、その後、データ捏造や品質基準に満たないものを出荷したなど、様々な面で嫌疑が浮上する。
- 2018年7月27日
当社は、一連の不祥事から長生バイオの企業体質を問題視し、医薬品業に携わる企業としてあってはならない不正行為から提携パートナーとして適さないと判断。
現在、中国で進めているアダリムマブバイオシミラーの共同事業化の提携関係を解消する方針を決定。

今後の方針

- 長生バイオとは早期の提携解消に向けて交渉を開始する。
- 中国はバイオシミラー市場として戦略的価値があることは変わらない。
- 新たなパートナーを探索し、アダリムマブバイオシミラー・その他バイオシミラー上市を目指して再スタートを図る。

(株)chromocenterとの共同研究契約締結

高産生細胞株構築を目指した基盤技術確立のための共同研究契約締結

chromocenter (クロモセンター) とは??

→人工染色体ベクター、染色体解析等を所有するバイオ関連技術の専門家

▶ クロモセンターが所有する人工染色体ベクター技術を利用し、組換えタンパク質のアミノ酸配列をコードする遺伝子構成体の最適化を行い、バイオシミラーの高産生細胞株を構築することを目指す。

<本研究の目的>

① 共同研究

クロモセンターとの共同研究

クロモセンターが所有する人工染色体ベクター技術を導入して、当社の抗体技術と組み合わせる新しい基盤技術確立を目指す。

② 基盤技術確立

高産生細胞株がもたらす効果

- ✓ 原薬製造量の増加
- ✓ 製造コストの低減
- ✓ 製造効率化
- ✓ 価格競争力強化
- ✓ 提携交渉の確度UP

③ 競争優位性の確保

バイオ医薬品開発が有利に

開発中のパイプラインや、今後手掛ける新薬やバイオシミラーにも応用することで開発品目の競争優位性を確保。

各パイプラインの進捗

① バイオシミラー

開発番号	対象疾患	開発研究	臨床試験（治験）		申請・審査 承認・上市	提携先
			第1相	第3相		
GBS-001 フィルグラスチム	がん					富士製薬工業(株) 持田製薬(株)
GBS-004 ヘバシズマブ	がん					
GBS-005 アタリムマブ	免疫疾患					長春長生生物科技有限責任会社との提携 解消に向けて交渉中 導出活動中
GBS-007	眼疾患					千寿製薬(株)
GBS-008 バリビズマブ	感染症					
GBS-010 ペグフィルグラスチム	がん					
GBS-011 ダルベポエチンアルファ	腎疾患					(株)三和化学研究所

◆ 当第1四半期において、上記パイプラインの中から開発が進捗したことによるマイルストーンを受領

② バイオ新薬

開発番号	対象疾患	基礎研究	開発研究	臨床試験(治験)			申請・審査承認・上市	提携先
				第1相	第2相	第3相		
GND-001 抗ヒトα9インテグリン抗体	免疫疾患、がん							科研製薬(株)
GND-004	眼科疾患、がん							導出活動中
GND-007	免疫疾患							

③ 新規バイオ事業 (再生医療)

開発品	対象領域	基礎研究	臨床試験(治験)	条件・期限付き承認※	市販 (市販後に有効性、更なる安全性を検証)	承認	継続して販売	共同研究企業・大学等
心臓内幹細胞	心機能の改善							(株)日本再生医療
免疫寛容誘導	自己免疫疾患 臓器移植、アレルギー							順天堂大学
骨髄間葉系幹細胞	糖尿病性腎症							札幌医科大学 (株)ミネルヴァメディカ

※再生医療等製品の早期実用化に対応した承認制度。患者にリスクを説明・同意を得て、先行して使用し、市販後の安全対策を講じる。



注意事項

この資料は株式会社ジーンテクノサイエンス（以下、当社という）をご理解いただくために作成されたものであり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

この資料に含まれている今後の戦略・計画、将来の見通し及びその他将来の事象等に関する記載には、本資料の発表時点において合理的に入手可能な情報に基づく当社の仮定、見込み等が含まれます。そのため、実際の業績、開発進捗等は、今後の研究開発の成否や将来における当局の対応、事業パートナーの状況等、現時点では不明又は未確定な要因によって、本資料の記載とは異なる結果となる可能性があります。



GENE TECHNO SCIENCE

株式会社ジーンテクノサイエンス



バイオで価値を創造するエンジニアリングカンパニー